

表 12.9.1-29(10)重要な鳥類の予測結果

ハチクマ		
一般生態	丘陵地から山地にかけての森林に生息する。秋には東南アジアに渡って越冬し、春に営巣地に飛来し繁殖を行う。主にスズメバチやアシナガバチ等のハチ類の幼虫や蛹を捕食し、雛にはハチの巣を運んで与える。アカマツやカラマツ、広葉樹等の樹上に営巣し、6月頃に産卵、28～35日程度で孵化、35～45日程度で巣立し、秋の渡りの時期までに独立する。	
確認状況	<p>現地調査</p> <p>【一般鳥類調査】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・計画路線区域 : ー</li> <li>・計画路線区域周辺 : 2箇所</li> <li>・その他 : 6箇所</li> </ul> <p>【猛禽類調査】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・天竜川兩岸の山地及び山麓の樹林地を中心に確認例が集中し、平成27年が215例を、平成28年が242例を記録し、2年間の調査期間中に5組のつがいで繁殖に係る行動を確認した。</li> <li>・確認つがいの営巣中心は、3組が計画路線区域から約1.5km以遠で、2組が約0.7km以内であり、最も近い組が約0.5kmで、最も離れている組が約2.7kmである。計画路線区域及び計画路線区域周辺に営巣中心域は存在しない。飛翔は確認されているものの営巣中心は存在せず、計画路線区域及びその周囲で繁殖の指標行動(巣材運び、餌運び、ディスプレイ、幼鳥など)も確認されていない。</li> <li>・計画路線区域の上空を横切る個体が21例(平成27年:1例、平成28年:20例)確認されており、計画路線区域周辺の上空を飛翔する個体の確認例はその1.2倍程度以上であった。</li> </ul>	
確認地点の生息環境	<p>現地調査</p> <p>【一般鳥類調査】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・計画路線区域 : ー</li> <li>・計画路線区域周辺 : 樹林地</li> <li>・その他 : 樹林地、農耕地、中規模河川</li> </ul> <p>【猛禽類調査】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・樹林地、農耕地、大規模河川、中規模河川</li> </ul>	
影響予測	工事の実施	<p>工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置並びに建設機械の稼働</p> <p>本種は、行動圏が広く、山地の樹林地を中心に多様な自然環境を利用することから、計画路線区域を含め、予測地域で見られる樹林地、農耕地、大規模河川、中規模河川などの自然環境ある場所を利用すると考える。工事施工ヤードは極力計画路線上を利用し、工事用道路は極力既存道路を利用することにより、改変面積を最小限に抑え、生息環境が広く残ることから、人為的な攪乱による生息環境(営巣・成育・採餌に係る環境)の質的变化はほとんど生じないと考える。よって、本種及びその主な生息環境は保全されると予測する。確認つがいの営巣中心は計画路線区域から約550m以上離れている。工事に際しては低騒音型・低振動型の建設機械を使用し、騒音・振動の発生の低減に努めることから、当該種の繁殖等へ影響はほとんど生じないと考える。よって、本種及びその主な生息環境は、保全されると予測する。</p>
	存在・供用	<p>道路の存在</p> <p>本種は、行動圏が広く、山地の樹林地を中心に多様な自然環境を利用することから、計画路線区域を含め、予測地域で見られる樹林地、農耕地、大規模河川、中規模河川などの自然環境ある場所を利用すると考える。事業により行動圏に含まれる主な生息環境である樹林地、農耕地、大規模河川及び中規模河川の一部が消失・縮小する。しかし、計画路線区域の周辺に同様な環境が広く広大に残り、確認つがいの営巣中心は計画路線区域から約550m以上離れ、営巣中心域の生息環境の直接改変はないことから、生息地の環境条件(営巣・成育・採餌に係る条件)の変化は軽微であり、道路の存在に伴う生息環境への間接的な影響(質的变化)はほとんど生じないと考える。よって、本種及びその主な生息環境は、保全されると予測する。</p>

表 12.9.1-29(12)重要な鳥類の予測結果

ハイタカ	
一般生態	<p>低山～亜高山帯の森林に生息し、冬季に少数が暖地に移動する。餌は鳥類、昆虫、小型哺乳類などで、林内や林縁の農耕地や草地で狩りを行う。主に針葉樹の葉が密生した枝上に営巣し、5月頃に産卵を行う。</p>
確認状況	<p>現地調査</p> <p>【一般鳥類調査】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・計画路線区域 : 3箇所</li> <li>・計画路線区域周辺 : 5箇所</li> <li>・その他 : 3箇所</li> </ul> <p>【猛禽類調査】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・天竜川左岸の山地及びその周辺に確認例が集中し、平成27年が18例を、平成28年が25例を記録した。</li> <li>・計画路線区域を位置する丘陵地及びその周辺の地域で飛翔が集中するような確認場所はなく、繁殖行動を示す個体は繁殖の指標行動(巣材運び、餌運び、ディスプレイ、幼鳥など)を示す個体も確認されていない。この地域を餌場として利用していると推測される。</li> <li>・計画路線区域の上空を横切る個体が3例(平成27年:1例、平成28年:2例)、計画路線区域周辺の上空を飛翔する個体が11例(平成27年:4例、平成28年:16例)確認されている。</li> </ul>
確認地点の生息環境	<p>現地調査</p> <p>【一般鳥類調査】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・計画路線区域 : 樹林地、農耕地</li> <li>・計画路線区域周辺 : 樹林地、農耕地、大規模河川</li> <li>・その他 : 樹林地、農耕地、大規模河川</li> </ul> <p>【猛禽類調査】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・樹林地、農耕地、大規模河川、中規模河川</li> </ul>
影響予測	<p>工事の実施</p> <p>工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置並びに建設機械の稼働</p> <p>本種は、行動圏がやや広く、樹林地を中心に多様な自然環境を利用することから、計画路線区域を含め、予測地域で見られる樹林地、農耕地、大規模河川、中規模河川などの自然環境ある場所を利用すると考える。工事施工ヤードは極力計画路線上を利用し、工事用道路は極力既存道路を利用することにより、改変面積を最小限に抑え、生息環境が広く残ることから、人為的な攪乱による生息環境(営巣・成育・採餌に係る環境)の質的变化はほとんど生じないと考える。よって、本種及びその主な生息環境は、保全されると予測する。</p>
	<p>存在・供用</p> <p>道路の存在</p> <p>本種は、行動圏がやや広く、樹林地を中心に多様な自然環境を利用することから、計画路線区域を含め、予測地域で見られる樹林地、農耕地、大規模河川、中規模河川などの自然環境ある場所を利用すると考える。事業により行動圏に含まれる主な生息環境である樹林地、農耕地、大規模河川及び中規模河川の一部が消失・縮小する。しかし、計画路線区域の周辺に同様な環境が広く広大に残ることから、生息地の環境条件(営巣・成育・採餌に係る条件)の変化は軽微であり、道路の存在に伴う生息環境への間接的な影響(質的变化)はほとんど生じないと考える。よって、本種及びその主な生息環境は、保全されると予測する。</p>

表 12.9.1-29(13)重要な鳥類の予測結果

オオタカ		
一般生態	平地から山岳地帯にかけての森林に生息する。餌は小型～中型の鳥類や小型哺乳類などを捕食し、見通しのよい林縁の木の枝や鉄塔などに留まり、捕食動物を待ち伏せする。スギ、アカマツ、モミなどの常緑針葉樹林に多く営巣するほか、コナラ、クヌギなどの落葉広葉樹にも営巣する。5～6月にかけて産卵、約37日で孵化、約40日で巣立ちし、巣立ち後1ヶ月程度で分散を始める。	
確認状況	現地調査 <p>【一般鳥類調査】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・計画路線区域 : 4箇所</li> <li>・計画路線区域周辺 : 4箇所</li> <li>・その他 : 4箇所</li> </ul> <p>【猛禽類調査】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・天竜川兩岸の山地及び山麓の樹林地を中心に確認例が集中し、平成27年が73例を、平成28年が66例を記録し、2年間の調査期間中に5組のつがいで繁殖に係る行動を確認した。</li> <li>・確認つがいの営巣中心は、4組が計画路線区域から約1.5km以遠で、1組が約0.8～1.1kmであり、最も離れている組が約2.8kmである。計画路線区域及び計画路線区域周辺に営巣中心域は存在しない。飛翔は確認されているものの営巣中心は存在せず、計画路線区域及びその周囲で繁殖の指標行動（巣材運び、餌運び、ディスプレイ、幼鳥など）も確認されていない。</li> <li>・計画路線区域の上空を横切る個体が7例（平成27年：4例、平成28年：3例）確認されており、計画路線区域周辺の上空を飛翔する個体の確認例はその1.2倍程度以上であった。</li> </ul>	
確認地点の生息環境	現地調査 <p>【一般鳥類調査】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・計画路線区域 : 樹林地、農耕地、大規模河川</li> <li>・計画路線区域周辺 : 樹林地、農耕地、大規模河川</li> <li>・その他 : 樹林地、農耕地、大規模河川</li> </ul> <p>【猛禽類調査】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・樹林地、農耕地、大規模河川、中規模河川</li> </ul>	
影響予測	工事の実施 工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置並びに建設機械の稼働	本種は、行動圏が広く、山地の樹林地を中心に多様な自然環境を利用することから、計画路線区域を含め、予測地域で見られる樹林地、農耕地、大規模河川、中規模河川などの自然環境ある場所を利用すると考える。工事施工ヤードは極力計画路線上を利用し、工事用道路は極力既存道路を利用することにより、改変面積を最小限に抑え、生息環境が広く残ることから、人為的な攪乱による生息環境（営巣・成育・採餌に係る環境）の質的变化はほとんど生じないと考える。よって、本種及びその主な生息環境は保全されると予測する。確認つがいの営巣中心は計画路線区域から約850m以上離れている。工事に際しては低騒音型・低振動型の建設機械を使用し、騒音・振動の発生を低減に努めることから、当該種の繁殖等へ影響はほとんど生じないと考える。よって、本種及びその主な生息環境は、保全されると予測する。
	存在供用 道路の存在	本種は、行動圏が広く、山地の樹林地を中心に多様な自然環境を利用することから、計画路線区域を含め、予測地域で見られる樹林地、農耕地、大規模河川、中規模河川などの自然環境ある場所を利用すると考える。事業により行動圏に含まれる主な生息環境である樹林地、農耕地、大規模河川及び中規模河川の一部が消失・縮小する。しかし、計画路線区域の周辺に同様な環境が広く広大に残り、確認つがいの営巣中心は計画路線区域から約850m以上離れ、営巣中心域の生息環境の直接改変はないことから、生息地の環境条件（営巣・成育・採餌に係る条件）の変化は軽微であり、道路の存在に伴う生息環境への間接的な影響（質的变化）はほとんど生じないと考える。よって、本種及びその主な生息環境は、保全されると予測する。

表 12.9.1-29(15)重要な鳥類の予測結果

クマタカ	
一般生態	<p>山地の低山から亜高山帯の林に周年生息する留鳥で、大径木のある森林地帯に生息する。餌は中型の哺乳類、鳥類、爬虫類などで、基本的には樹上で獲物が現れるのを待ち捕獲する。広い森林内の斜面のアカマツ、モミ、スギや落葉広葉樹の大径木に営巣し、3月頃に産卵する。繁殖は1年あるいは隔年に1回である。</p>
確認状況	<p>現地調査</p> <p>【猛禽類調査】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・計画路線区域から1km以上離れた天竜川左岸の山地での確認例がほとんどであり、平成27年が9例を、平成28年が3例を記録した。</li> <li>・計画路線区域を位置する丘陵地及びその周辺の地域で繁殖行動を示す個体は飛翔が集中するような確認場所はなく、繁殖の指標行動(巣材運び、餌運び、ディスプレイ、幼鳥など)を示す個体も確認されていない。</li> <li>・平成28年に天竜川左岸の山地から計画路線区域の上空を横切り左岸の山地方向に飛翔する個体が1例確認されている。</li> </ul>
確認地点の生息環境	<p>現地調査</p> <p>【猛禽類調査】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・樹林地、農耕地、大規模河川、中規模河川</li> </ul>
影響予測	<p>工事の実施</p> <p>工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置並びに建設機械の稼働</p> <p>本種は、行動圏が広く、山地の樹林地を中心に多様な自然環境を利用することから、計画路線区域を含め、予測地域で見られる樹林地、農耕地、大規模河川、中規模河川などの自然環境ある場所を利用すると考える。工事施工ヤードは極力計画路線上を利用し、工事用道路は極力既存道路を利用することにより、改変面積を最小限に抑え、生息環境が広く残ることから、人為的な攪乱による生息環境(営巣・成育・採餌に係る環境)の質的变化はほとんど生じないと考える。よって、本種及びその主な生息環境は、保全されると予測する。</p>
	<p>存在・供用</p> <p>道路の存在</p> <p>本種は、行動圏がやや広く、山地の樹林地を中心に多様な自然環境を利用することから、計画路線区域を含め、予測地域で見られる樹林地、農耕地、大規模河川、中規模河川などの自然環境ある場所を利用すると考える。事業により行動圏に含まれる主な生息環境である樹林地、農耕地、大規模河川及び中規模河川の一部が消失・縮小する。しかし、計画路線区域の周辺に同様な環境が広く広大に残ることから、生息地の環境条件(営巣・成育・採餌に係る条件)の変化は軽微であり、道路の存在に伴う生息環境への間接的な影響(質的变化)はほとんど生じないと考える。よって、本種及びその主な生息環境は、保全されると予測する。</p>

表 12.9.1-29(18)重要な鳥類の予測結果

ハヤブサ	
一般生態	多くの個体は留鳥として繁殖するが、一部は暖地の海岸や平野部に移動する個体もいる。海岸や海岸に近い山の断崖や急斜面、広大な水面のある地域や広い草原、原野等を生活域とし、獲物の大半はヒヨドリ級の中型鳥類で、稀に地上でネズミやウサギを捕らえる。営巣地は海岸や海岸に近い山地の断崖の岩棚で、繁殖に適した岩棚が無い場合は、岩礁の頂上や岬先端部の草地や砂地の上に産卵する例もある。
確認状況	現地調査 <b>【一般鳥類調査】</b> ・計画路線区域 : 3箇所 ・計画路線区域周辺 : 5箇所 ・その他 : 1箇所 <b>【猛禽類調査】</b> ・天竜川左岸の山地及びその周辺に確認例が集中し、平成27年が10例を、平成28年が28例を記録した。 ・当該地域で繁殖は確認されていないが、計画路線区域を位置する丘陵地及びその周辺の地域で若鳥が確認されている。 ・計画路線区域及び計画路線区域周辺に <b>営巣中心域は存在しない飛翔は確認されているものの営巣中心は存在せず、計画路線区域及びその周囲で繁殖の指標行動（巣材運び、餌運び、ディスプレイ、幼鳥など）も確認されていない</b> が、狩場のとまり場として利用されている場所が、計画路線区域から約300m程度離れた場所で確認されている。 ・計画路線区域の上空を横切る個体が6例（平成28年：6例）、計画路線区域周辺の上空を飛翔する個体が18例（平成27年：6例、平成28年：12例）確認されている。
確認地点の生息環境	現地調査 <b>【一般鳥類調査】</b> ・計画路線区域 : 樹林地、農耕地、大規模河川 ・計画路線区域周辺 : 樹林地、農耕地、大規模河川 ・その他 : 樹林地 <b>【猛禽類調査】</b> ・樹林地、農耕地、大規模河川、中規模河川
工事の実施	工事施工ヤードの設置及び工事用道路等の設置並びに建設機械の稼働 本種は行動圏が広く、河川や農耕地を中心に多様な自然環境を利用することから、計画路線区域を含め、予測地域で見られる樹林地、農耕地、大規模河川、中規模河川などの自然環境ある場所を利用すると考える。工事施工ヤードは極力計画路線上を利用し、工事用道路は極力既存道路を利用することにより、改変面積を最小限に抑え、生息環境が広く残ることから、人為的な攪乱による生息環境（営巣・成育・採餌に係る環境）の質的变化はほとんど生じないと考える。よって、本種及びその主な生息環境は保全されると予測する。狩場のとまり場として利用されている場所が計画路線区域から約300m程度の所にあり、繁殖実施時に営巣中心になるおそれがある。しかし、工事に際しては低騒音型・低振動型の建設機械を使用し、騒音・振動の発生の低減に努めることから、当該種の繁殖等へ影響はほとんど生じないと考える。よって、本種及びその主な生息環境は、保全されると予測する。
影響予測	存在・供用 道路の存在 本種は行動圏が広く、河川や農耕地を中心に多様な自然環境を利用することから、計画路線区域を含め、予測地域で見られる樹林地、農耕地、大規模河川、中規模河川などの自然環境ある場所を利用すると考える。事業により行動圏に含まれる主な生息環境である樹林地、農耕地、大規模河川及び中規模河川の一部が消失・縮小する。しかし、計画路線区域の周辺に同様な環境が広く広大に残り、繁殖実施時に営巣中心になるおそれがある場所は計画路線区域から約300m程度離れ、この場所を営巣中心した場合、営巣中心域の生息環境の直接改変はないことから、生息地の環境条件（営巣・成育・採餌に係る条件）の変化は軽微であり、道路の存在に伴う生息環境への間接的な影響（質的变化）はほとんど生じないと考える。よって、本種及びその主な生息環境は、保全されると予測する。